

とうきょう すくわくプログラム活動報告書



こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

施設番号	66-1319
施設名	たばた絆保育園・おうじ絆保育園(分園)
施設所在地	北区田端新町1-8-15-101
法人名	社会福祉法人絆友会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

色と形と素材に触れる

<テーマの設定理由>

子どもたちの目は、大人が見過ぎてしまうような小さな変化や美しさを捉える天才です。道端に落ちているキラキラした石、雨上がりの葉っぱの質感、夕焼けの空の色。こうした「色・形・素材」への気付きは、子どもたちの豊かな感性の源泉となります。今回の探究活動では、戸外での自然散策や室内での素材遊びを通じ、子どもたちが「自分だけの発見」を積み重ねることを大切にしています。一つの素材から別の形を想像したり、色を混ぜて新しい発見をしたりするプロセスを共有することで、一つの事象から興味を次々と広げ、深く探求しようとする姿勢を育てていきたいと考え、このテーマを設定しました。

2. 活動スケジュール

計4回（11月1回、1月1回、2月1回、3月1回）
2025年11月から2026年3月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

「色形セット」絵の具セット・刷毛・ローラー・顕微鏡・色ブロック・セロファン・ペン
模造紙・粘土・色ブロック

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

子どもたちが「色・形・素材」という3つの要素をじっくりと探究できるよう、4つの段階に分けた連続的な活動を行いました。

まず第1段階では、戸外での「収集と観察」を行いました。散歩や戸外遊びの中で、子どもたちは心惹かれる形の葉っぱや、手触りの面白い石などを自由に集めました。園に戻ってから顕微鏡やルーペで拡大してみると、肉眼では見えなかった葉脈の美しさや樹皮の複雑な質感に、驚きと喜びの声を上げる姿が見られました。

第2段階では、それらの発見を室内の「分析と構成」へと繋げました。自然界で見つけたパターンを色ブロックやチップで再現し、実物のイメージを抽象的な形へと落とし込む作業を行いました。

続く第3段階は、絵の具を使った「実験と創造」です。戸外で見つけた「自然の色」を再現しようと三原色を混ぜ合わせる中で、色の変化や水の量による濃淡の不思議を科学的な視点で体験しました。

最後は、これまでのプロセスを融合させた「共同表現」へと発展させました。自分たちで作った色やブロックで考えた形、集めた素材を組み合わせて、一つの大きなオブジェを制作しました。この一連の流れを通して、子どもたちの豊かな感性と探究心が育まれる大切な機会となりました。

1. 子どもたちの様子：心躍る発見と、とことん追求する姿

「わあ、すごい！」あふれ出す発見の喜び

普段は何気なく見ている葉っぱや石も、顕微鏡やルーペでのぞくと別世界！「迷路みたいな模様がある！」「チクチクしてる！」と、小さな発見に目を輝かせ、驚きを言葉にする姿がたくさん見られました。

納得いくまでチャレンジ！色作りの実験

「この葉っぱと同じ色を作りたい」という目標に向かって、赤・青・黄の絵の具を混ぜたり水の量を変えたり…。何度も何度も試行錯誤を繰り返す、素晴らしい集中力を見せてくれました。

「まる・さんかく・しかく」形への新しい視点

実物をそのまま描くだけでなく、「この形はブロックに似ているね」と、特徴を捉えて積み木やチップで表現できるようになりました。物事を観察し、自分なりに整理して考える力が育っています。

力を合わせて、大きな宝物作りへ

最後は、みんなが作った色や形を組み合わせて、一つの大きなオブジェを作りました。「ここは私が作った色にしよう」「ここに置くときれいだよ」と、お友だちとアイデアを出し合いながら協力して完成させることができました。

2. 先生たちのサポート：一歩踏み出すための「魔法の声かけ」

「もっと見たい！」を引き出す道具選び

ただ「見てね」と言うだけでなく、顕微鏡などの本格的な道具を準備することで、子どもたちの視点がぐっと深まるように工夫しました。

一歩ずつ、達成感を積み重ねるステップ

「集める→じっくり見る→色を作る→みんなで作る」という流れを大切にしました。一つひとつの経験が次の活動の自信につながるよう、段階を追って計画しました。

「どうしてかな？」と一緒に考える対話

子どもたちの驚きに寄り添い、一緒に不思議がることを大切にしました。「どうすれば同じ色になるかな？」と問いかけることで、子どもたちが自分で答えを見つけるヒントを贈りました。

「自分らしさ」と「みんなで」のバランス

まずは一人ひとりが納得いくまで色作りや形作りに没頭できる時間を十分に確保しました。その満足感があったからこそ、最後はみんなで力を合わせる楽しさを、より大きく感じることができました。

3. この活動で育った「たからもの」

豊かな感性：手で触れ、目で見て、五感をフルに使って自然の美しさを感じ取りました。

科学する心：「なぜ？」「やってみよう」「できた！」という、科学的な考え方の基礎を遊びの中で体験しました。

自信と絆：「自分の作ったものが、みんなの作品の一部になった！」という喜びが、自分を大切に思う気持ちと、お友だちを大切に作る気持ちにつながっています。



5. 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

今回の活動を通して、保育士としての「教える」役割と、園児の「学びに向かう力」姿勢のバランスについて深い気づきが得られました。当初、正解へ導くことばかりに注力していましたが、園児が試行錯誤する過程をじっくり観察することで、彼ら独自の思考のプロセスや、小さな発見の尊さに改めて気づかされました。

保育士が先に答えを提示することは効率的ですが、園児の主体的な探究心を奪いかねません。園児の沈黙や迷いを「停滞」ではなく「思考の深まり」として捉え直すことで、一人ひとりの個性に適した支援の在り方が見えてきました。今後は、安易に教え込むのではなく、園児が自ら気づきを得られるような問いかけや環境づくりに努めたいと考えます。